

生活介護事業所 第2みらい 令和2年度 事業計画

はじめに…

今年度から豊中親和会第2次中・長期計画がスタートします。様々なニーズや課題、それらに基づく事業運営などについて検討し、新たな実施項目を策定したものです。前回の反省点を生かし、実施項目に基づく部会を立ち上げ、しっかりと進捗管理を行い、着実に目標を達成できるよう取り組んでまいります。当事業所からも各部会に職員が参画することで、職員各々が法人運営の一端を担い、力を発揮してもらいたいと考えています。

運営面においては、昨年度の平均利用数/月（39.2名/月）を鑑み、定員を40名に変更することで単価を増やし、収入の増を図ります。また、今年度は第三者評価を受審し、透明性及び公正性の向上を目指します。

体制面においては、主任のサービス管理責任者（以降サビ管）兼務を解き、新たなサビ管を配置することにより、各フロアにサビ管を設置し、主任を中心とした支援体制の確立を図ります。

支援面では、引き続き高齢化・重度化・障害特性など各々のニーズに合わせた支援（リハビリ訓練、個別化、集団での支援など）を進めるとともに、積極的に研修等に参加し専門性の向上を図ります。また、「虐待の防止と対応時マニュアル」の周知を徹底し、虐待の防止に努めます。

1. 事業所の運営方針

- (1) 利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他の便宜を適正かつ効果的に行う。
- (2) 障害者福祉の関係法令を遵守し、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（「障害者総合支援法」）に基づく指定障害福祉サービス生活介護の事業を実施する。
- (3) 豊中市の他の障害福祉サービス事業者と連携をとりつつ、日中活動の場として地域福祉の充実に寄与する。
- (4) 生活介護の支援内容より他の支援が適していると思われる利用者には、本人にあった支援内容を提供できる事業所への移行も考慮する。

2. 事業所の支援方針

- (1) 個別支援計画に基づき利用者一人一人のニーズに見合ったサービスの提供を心がける。
- (2) 利用者が安心して通所し、安定した毎日を過ごせるための信頼関係を基に、様々な楽しみを提供する。
- (3) 利用者が快適な日常生活を営むことができるよう、エンパワメントを高められるよう身近面の自立を促すプログラム、および身体機能の維持・向上を意図したプログラムを計画する。
- (4) 利用者の個性を大切にされた創作活動や、これまで培ってきた作業活動の機会の提供を行う。

5. サービスの内容

◎作業支援

個人の作業能力に応じ生産する喜びが持てるよう自主製品製作や内職、屋外作業などの支援を行う。自主製品については、できる限り利用者の皆様に取り組んでいただけるような製品開発を行うとともに、販路の確保に努める。陶芸の指導については豊中市の青年教室の枠を利用し、引き続き講師をお願いする。作業を継続して取り組むことが困難な利用者の方には、自立課題や作業前訓練等を提供し、作業への動機づけを図る。

また、豊中市から受託している近隣の公園清掃をはじめ、農園や園芸にも取り組み、心身の活性化を図る。

◎生活支援

個別支援計画を基に日常生活上必要な介護、支援、相談、助言を支援の中心におく。障害特性とニーズに基づき、必要に応じて小グループ化を図り、ストレングスを活かしたより充実したプログラムを提供できる様に環境整備・活動を行う。

また、エンパワメントを高められるように自己選択できるような機会を提供する。看護師による健康管理を行い、身体機能の低下を防ぎ、運動機能の維持・向上に努めるためのプログラムの充実を図るとともに、作業療法士による専門的なりハビリ訓練も実施する。

また、ご家族の高齢化等に伴う介助の負担軽減のため、必要に応じ入浴サービスを実施する。

- (1) 個別支援計画の作成
- (2) 食事の提供
- (3) 身体の清拭
- (4) 入浴サービス
- (5) 身辺面の介護
- (6) 生産活動（受注作業、陶芸、農園、自主製品他）
- (7) 創作的活動（さおり織り、その他）
- (8) 身体機能および日常生活能力の維持・向上のための支援
- (9) 生活相談
- (10) 健康管理
- (11) 訪問支援
- (12) 送迎サービス
- (13) 前各号に掲げる便宜に付帯する便宜

(2) から (13) に付帯する離床、着替え及び整容その他日常生活上必要な介護、支援、相談、助言

◎行事・余暇活動支援

事業所も地域の構成員であることを前提に、豊中市や地域主催の行事に積極的に参加する。宿泊訓練については、ニーズに合わせた小グループ毎で実施する予定。

(年間予定)

月	行 事 名	単 位
5月	余暇活動	各グループ
5月	味覚狩り	全体行事
9月	素のままフェスタなど	地域交流
11月	余暇活動	各グループ
12月	クリスマス会	全体行事
3月	第2みらいフェスティバル	全体行事

※ 1泊旅行は各グループで実施時期を決定して実施

※ グループ活動を年3回実施

※ その他 選択行事1回

◎余暇活動

本人の選択による余暇を楽しむ。指導者を外部から招き、支援員以外の関わりを持つことで社会性を養う。茶道、華道、リズム体操、音楽療法の指導については講師の派遣依頼をする。その他については支援スタッフの企画実施により行う。

運動系： スポーツ&レク（旧リズム体操）・ダンス・プール

文化系： 華道・茶道・音楽クラブ

◎ 創作活動

ご本人の選択により活動を決定し、興味の開拓をテーマに、楽しむ機会を提供する。また、作品展への出展など、達成感に繋がるように目標設定を行う。

◎日中一時支援（私的契約）

家族の冠婚葬祭や所用で所定の時間に迎えることが困難な場合、時間を延長して支援する。入浴サービス、外食、特別送迎の提供で緊急時の家族支援にできる範囲で応える。利用料は私的契約に基づいたものとする。

◎入浴サービス

養護者の高齢化等に伴う介護負担の軽減および利用者のニーズの対応のため、週2日、1日3人を限度に私的契約による入浴サービスを行う。

利用料は私的契約に基づいたものとする。

◎ 送迎

・マイクロバスの運行管理は引き続き「ジャパンリリーフ」に委託。その他の車両については、キャラバン2台を日産とリース契約しているため、双方で車両管理を行う。

・医療機関への通院などは、可能な限り「特別送迎」として別便で対応する。

（利用者負担）

・利用者の増員や家庭の都合によってやむを得ずコースの変更をする場合、円滑に送迎できるように調整する。

◎健康管理・栄養管理

○保健衛生

[健康診断]

年1回実施予定。実施機関は未定。

[インフルエンザ予防接種]

希望者を対象に実施予定。今年度も嘱託医により第2みらいにて受診することが可能か検討中。

[その他]

月2回嘱託医による健康相談を実施。月1回の体重測定及び血圧測定の実施。また、日頃の健康管理とノロウイルス等の感染症予防の情報提供を適宜行い、感染症予防に努める。事業所内での病気、けが等には家族との連携を密に取りながら迅速に対応する。

看護職員による健康管理を実施し、疾病などの早期発見に努める。

[訪問歯科サポートすまいる]

- ・毎月4回(毎週1回) 受診希望者28人
- ・歯科医師、歯科衛生士による口腔ケア、歯周病治療、衛生管理など

○給食

- ① 管理栄養士がカロリーや栄養素を検討し、また、毎月1回給食会議を開催し、利用者の嗜好(嗜好調査年2回実施)や意見を給食に反映する。
- ② 管理栄養士により栄養管理の助言を行ない、利用者の健康管理につなげる。
- ③ 年2回嗜好調査を行い、体調管理の面からも給食を考えていく。また希望のメニューがあれば可能な限り、取り入れる。
- ④ 四季折々の季節食や行事での特別メニューを積極的に取り入れる。

◎防災

年2回の総合訓練が義務づけられているが、それ以外に地震や火災を想定した避難誘導訓練を行い、緊急事態へも対応できるようにする。また、防火管理者の指示のもとで訓練状況を自己評価するとともに、防災ビデオの上映や消火機器操作の訓練等も実施し、防災意識の醸成に努める。

6. 広報・地域活動

- ① 広報誌については、これまで各事業所にて制作及び発行をしていたが、今年度より法人で一本化した広報誌「親和会通信」を年3回発行し、関係機関に配布する。また、ホームページについてもリニューアルを予定しており、広報力の向上を目指す。掲載する情報などのうち写真や氏名については、「個人情報保護法」に基づき、本人・ご家族へ通知するなど、慎重かつ適正に実施する。
- ② 地域の方々に事業所の活動を周知し、幅広い交流を促進するため、近隣の学校、福祉施設、障害者団体等との交流を図るための行事を企画・運営する。(豊中市みどりの交流会、花苗プロジェクト、第2みらいフェスティバル、素のままフェスタなど)
- ③ 地域に根ざし、開かれた事業所運営を目指し、積極的に福祉を学ぶ学生やヘルパー等実習生に現場実習の機会を提供・受入れを行う。また、実習生が気軽にボランティアとして参加できるよう働きかける。
- ④ 障害のある方の体験実習も積極的に受け入れる。

7. 職員研修・会議等

(1)職員研修

法人研修要綱に基づき、新規採用職員に対してはオリエンテーションを実施するとともに、日々の振り返りを行うことにより基本的知識・社会性を養う。専門的知識の習得や支援のあり方などを学ぶため、積極的に個人での研修参加を促す。また、法人が主催する職員全体研修を研修委員会のもと、年数回企画・実施する。他機関や他事業との職員交流も積極的に行っていく。

(2) 会議など

○職員会議

職員間の情報の共有やサービスの改善・向上、意志統一を図るため、月1回の定例会議をはじめ、必要に応じ随時会議を行う。

○ケース会議

利用者の障害特性・ニーズの理解を基本に職員が共通の認識のもとで、個別支援計画に基づいた支援をより効果的なものとするため毎月の定例会議をはじめ、必要に応じ臨時会議を行う。

○調整会議

支援を円滑に進めるために各グループのリーダーで事前に課題検討を行う。

○個別支援計画会議

サービス管理責任者が主宰し、計画策定時及び見直し時に支援計画の在り方、問題点などについて協議する

○その他会議

・運営会議

法人及び各事業所の運営を統一するため調整会議を月1回定例で行う。

・中長期計画に基づく部会

中長期計画の実施項目に基づく部会を必要に応じて行う。

8. 苦情解決

- ・玄関口に意見箱を設置し、意見書カードにて苦情受付をする。
- ・ご家族からの苦情も連絡帳や家族会、個別面談などで随時受け付ける。
- ・内容によっては第三者委員の指導を頂きながら、円満な解決を図る。
- ・利用者一人ひとりの声を大事にしながら利用者にとって信頼のおける施設であるよう対応する。
- ・年複数回の事例報告を行い、第三者委員の指摘や助言を頂き、日々の利用者支援を見直す機会とする。

9. リスクマネジメント

・虐待防止委員会

利用者に対する支援が適切になされるとともに利用者の自立及び社会参加を阻害する虐待を防止することを目的として年2回開催する。また、事務局会議を開催し、必要に応じ分科会を設置する。

- ・利用者の安全・安心の確保のため、事故防止・虐待の防止等を目的に職員会議で日々のヒヤリハットを検証し（担当者を配置し）、安全の徹底及び再発防止に努め、緊張感をもって支援にあたることができるよう留意する。

10. 家族会との連携

- ・2ヶ月に一度家族会及び役員会を実施し、利用者活動の報告・意見交換を行う中でニーズを踏まえた良質なサービス提供に繋げていく。また、事業所活動の協力を依頼し、緊密な連携体制を整える。